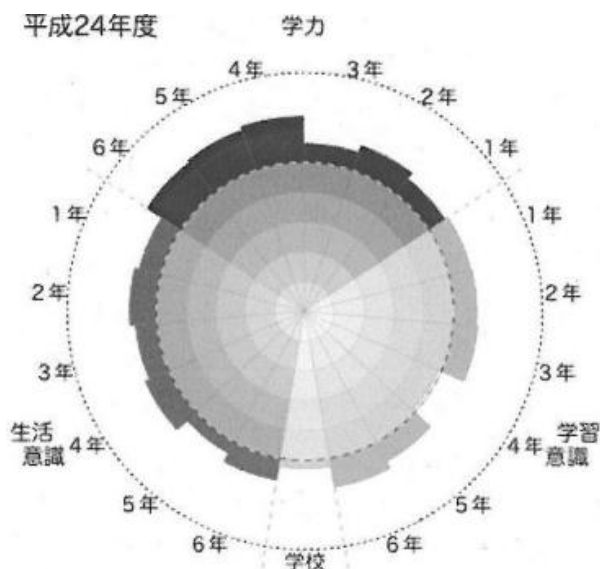


1 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(1) 分析チャートからの分析

※昨年度の

- ・元石川小
- ・すすきの小

の児童の中で、本校に移籍する児童のデータをまとめたもの。

平成23年度のデータもあるが、現状の本校の傾向を示している点について妥当性が低いと判断し、ここには掲載していない。

■チャートの傾向

- 学力、学習意識、生活意識と、すべての領域において市平均を上回っている。
- 特に、4年生以上の学力の高さが顕著である。
- 生活意識はほぼ均等である。

■分析

- 学年に関係なく、各教科の学習に対して「好き」や「大切であると思う」と回答する児童の割合は市平均を上回るとともにほぼ均等である。
→学習集団としてみたとき、総じて学習意欲が高いために、「子どもにとってわかる、魅力ある授業の創造」が不可欠である。定着のみを目的としたドリル的な学習活動や、知識を注入する「しっかり教える」視点にのみ指導が偏ると、学習集団は物足りなさを覚えると考えられる。グループ学習などの意見交換をしながら思考力や判断力を高め、「しっかり引き出す」授業展開が求められているといえる。
→同時に、各学級の個々の児童の特性をつかみ、それぞれの持ち味や課題を集団の学びにどう位置づけるか、学びそのものをどのように保障していくか、という点について、質の高い指導が求められているともいえる。個と集団の学びを保障するための授業の創造に厳しく立ち向かう必要がある。
- 生活意識調査の結果をみると、一見、「十分である」と認識してしまうが「学力に比べて相対的にみると、生活意識の高まりは高いとは言えない（特に4年生以上）」ともいえる。
→規範意識をより高めるために、適切な行動を常に評価しつつ、不適切な行動については的確に指導を重ねていくことが求められている。「話の聴き方」「学用品の使い方」「学びのルール」を定着させることによりいっそう努力するとともに「この場面でどのようにするのがベストな選択なのか」「集団にとってよりよい結果をもたらすためにどのように行動すればよいか」について、問題解決的な展開を進めていく指導が有効だと考えられる。
- まちな行事への参加については、高いとはいえない。本校の地域性を考えたとき、地域を基盤にした学びの創造はきわめて有効であると考えられる。行事に参加することで地域を見直し、地域を学びに取り入れることで自分自身を伸ばしていけると認識させることが必要であると考えられる。

(2) 経年分析

- 本年度の結果を元に分析し、来年度のアクションプランに生かす。

2 平成 25 年度 具体的方策

【学力向上実現に向けたキーワード】

「豊かな感性と確かな学び」

(1) キーワードのとらえ

■豊かな感性

○自分をとらえる

- 自分の持ち味、課題を発達段階に応じて自覚し、その伸張と改善に取り組めるようにする。
- 自分に向き合い、自己を受容するとともに自己を高めることに喜びをもてるようにする。

○他者をとらえる

- 家族、友人、地域の方々、社会そのものと望ましいかわりをもてるようにする。

○周囲をとらえる

- 文化、自然、歴史などに興味をもち、ものや事柄を自分の生き方に取り込めるようにする。

■確かな学び

○着実な学び（教員の視点では「しっかり教え」）

- 基礎・基本の定着を徹底する。

○問題解決的な学び（教員の視点では「しっかり引き出す」）

- 情報を的確に受け取り、それらを調査・分析したり、関係づけたりして問題の解決をはかれるようにする。

(2) 個々の取組

■集団での学びの充実

- 一人ひとりの問題意識をもとに学級の学習問題を設定し、小集団で考え合いながら、問題の解決に向けて追究していくような学習展開を心がける。

- 取り上げる言語活動に対して、その表現の特徴をもとに、発達段階に応じた（低・中・高別に）指導内容を明確にした授業づくりを行い、言語活動の充実に努める。

- 語彙力、情報活用能力を育成するために、学校図書館・PCスペースを充実させるとともに、読書活動や調査活動を重視する。

■個に応じた指導の充実

- 自分の感じたことや思ったことだけでなく、友だちの考えに対する自分の考えを書くことができるようにする。また、書いたことを友だちに伝える場面を設定する。

- 子ども一人ひとりの興味関心や学習状況などを座席表に記録したり、それをもとに指導案を作成したりしながら個を生かした学習指導を行う。

- 保護者の希望に応じて特別支援教室を組織的・計画的に活用する。

- 25分間の中休みを生かし、校庭でいっしょに遊んだり教室で会話したりするなど、教職員はできる限り子どもの姿を直に見つめられるようにし、児童理解に努める。

■家庭・地域との連携

- 学校運営協議会発足を視野に入れながら、授業参観や運動会等、様々な場面で地域や保護者の方に評価していただき、学校と地域や家庭が共通理解をもった学校運営を実現する。

- 家庭と連絡を密にし、コミュニケーションを取り合いながら情報共有や指導の方向を合意し合い、家庭生活を基盤にした学習・生活指導の確立を目指す。

- 美しが丘西保木地区の文化的・人的な資源を学校教育に取り込み、本校が「地域の全ての方々にとっての学びの拠点」となることを目指す。

(3) 組織の取組

■「教師として切磋琢磨しあえる同僚性をはぐくみ、互いに高め合う」ことを目指す。

- 本校の教育課程を作成する過程で学力向上に向けたキーワードを視点とした「研究授業」を実施する。

- 各教科領域の教材研究に取り組むとともに各学級の子どもの様子を語り合い、個への理解を深める。